



福島県中通りの南部に位置する当村は、那須連峰を西方に望み、隈戸川と外面川の清流が人口5千有余の生活を潤す、緑にまつまれた自然豊かな村です。

この大信村が、新たな世紀にふさわしい、躍動感に溢れ、活力に満ちた確かなる飛躍を果たすとともに、村民すべてが夢、未来、ゆとりや潤い、心の豊かさなどを実感できる確かな村づくりに努めております。村政の基本理念は、村民の立場でものを考え、村民とともに歩む村政、わかりやすい開かれた村民総参加の行政であります。「目配り、気配り、足配り」を基本姿勢とし、多様化、高度化する村民の意識やニーズに対応できるよう推進しているところであります。

「改革なくして成長なし」、今まさに国、地方を問わず「変革の時」であります。地方分権の流れの中で、村は国・県との協調のもと、自ら考え、自ら実践する政策形成能力を備える必要があります。そのためにも、村組織が自ら改革していかねばなりません。

現在は、福島空港の開港や東北縦貫道、新幹線といった高速交通網の整備により、首都圏との距離がますます近くなっております。地の利を活かした産業の振興を図りながら、村民がふるさとに誇りを持ち、個性あふれる地域づくりを村民とともに進めてまいります。

本誌は、大信村の姿を紹介するとともに、21世紀の新しい時代を創り出す当村の考え方を分かりやすくあらわしたものです。皆様に大信村を理解していただくための一助になれば幸いです。今後とも村政発展に御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 14 年 1 月

大信村長 **渡部 泰夫**

【村章】

大信村の村章は、昭和38年9月に制定されたもので、村人の融和と発展を円により力強く表現し、それらを支える行政が常に安定し建設的であるよう不動の山で象徴しています。また、進歩、堅実、正義を三角の各々の先端に配っています。



【プロフィール】

大信村は昭和30年に、旧信夫村(西白河郡)と大屋村(岩瀬郡)が合併して生まれた村です。旧村名から一字ずつとって大信村と名付けられました。

位置的には、福島県の南部、白河地方に属し、東西に長く、南北に短い長方形の地形をしています。西部は那須山系に連なり、谷あい隈戸川、外面川が流れ、村の東部は豊かな水量によって突り多い大地が広がり村の主産業である農業を支えています。

気候は、年平均気温が11.2度と比較的温暖で、夏涼しく降水量が少ないという特徴があります。

【村民憲章】

わたくしたちは、大信村民として自覚と誇りをもって郷土の限りない発展を願い、ここに村民憲章を定めます。

- 一、豊かな自然や緑を育み、うるおいのある村をつくりましょう。
- 一、伝統を受け継ぎ、教養を高め、文化の香り高い村をつくりましょう。
- 一、よく働き、豊かな暮らしの活力のある村をつくりましょう。
- 一、心と体を鍛え、健康で明るい村をつくりましょう。
- 一、手をつなぎ、住む喜びと安らぎのある村をつくりましょう。



村の花(ヤマユリ)
ヤマユリは、低山の草原などに生えている多年草です。本村では、いたる所で咲きほこり、その美しさとやさしい香りは豊かな人間味あふれる大信村を象徴しています。



村の木(スギ)
スギは、スギ科、スギ属の常緑高木です。その真っすぐに天をつくように伸びる姿は、まさに限りなく躍進を続ける大信村の姿を象徴しています。



村の鳥(キジ)
キジは、キジ科に属する鳥で、日本特有の鳥です。低山の草原、疎林に住んでいて本村にも多数生息しています。